

## 今日のみことば

### □ 7月23日(日) 創世記 11章

初め人類は一つの言葉を使っていた。何語かはわからないが精神生活は一つだった。しかし彼らは傲慢にも神に逆らった。神は行動を開始され、言葉は乱され、民は混乱した。

### □ 7月24日(月) 創世記 12章

神の救いの新しい歴史が始まる。神はアブラムを選び、彼より始まるイスラエル民族を神の民と定められた。彼らが特別に優れていたからではなく、彼らには神の特別使命があった。

### □ 7月25日(火) 創世記 13章

ネゲブに住んだアブラムとロトは、家畜が増えたことで問題が起きた。アブラムはロトに別れて住むことを提案し、先に選ぶようにと言った。ロトは自分の判断でソドムを選んだ。

### □ 7月26日(水) 創世記 14章

目先のことしか見えなかったロトは、戦争に巻き込まれ捕虜となった。アブラムは兄弟愛のゆえにロトを助け出した。真の信仰は人を独立させても、無頓着ではいられない。

### □ 7月27日(木) 創世記 15章

「大いなる国民とする」との神の約束が、具体的にアブラム自身の子についての約束として明確にされる。神はそれを保証される。

### □ 7月28日(金) 創世記 16章

アブラムには忍耐が足らず、自己流に神の言葉を解釈した。アブラムとサラは失敗した。端女ハガルとの間に子をもうけたが人間が小細工を弄するといつも問題が起こる。

### □ 7月29日(土) 創世記 17章

神はご自身を全能者と表された。そしてアブラム、サライがともにアブラハム、サラと改名された。名は実を表す。彼らに新しい使命が与えられたということです。

---

ろ ば No. 1825

2017年 7月23日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

ヨハネ19:25

イエスの十字架のそばにはその母と母の姉妹、クロパの妻マリヤとマグダラのマリヤとが立っていた。

イエスの十字架の足下にいたのは、母マリヤとその姉妹などの女性たちでした。私はいつもそのとき弟子たちはどこに、と思ったことでしたが、確かにそのそばには主が愛された弟子もいました。その彼らに声をかけられました。

イエスが捕らえられたとき、弟子たちはそばを離れました。ペテロはそれでも師であるイエスのことが気にかかって、後をつけましたが、お前も一緒にいたであろうと問い詰められると、思わず「知らない」と言ったことでした。弟子たちは、十字架に付けられたイエスを遠巻きがら見ていることしかできなかつたようですね。

イエスの母マリヤがヨハネ福音書の中で登場するのは、カナの婚礼の記事(ヨハ2:12) くらい二度目

です。イエスの母は、イエスの宣教と使命について、しっかりと理解をもっておいでになつたのであろうと聞くのです。その状況のもとで、イエスがかけられた言葉は、大変意味ある言葉だと言わなければならないのです。

たとえ家族であつたとしても、犯罪人のそば近くで涙するなど、とがめ立ての対象ではありませんか。その信頼関係は尋常ではありません。そこでイエスの言葉かけがありました。「婦人よ、覧なさい、あなたの子です」と。イエスの母マリヤに対する「婦人よ」との呼びかけは、カナン婚礼の場面でもありました。そこにははっきりと、使命に立っておられるイエスの

姿がありました。私たちがイエスと向き合うとき、私たちはイエスを「誰」と理解していますか。カナンの婚礼のとき、マリヤの求めに、イエスは「わたしとどんな関わりがあるのですか」と言われましたが、マリヤは召使いに「この方の言いつけに従いなさい」と言われたことを思い出しています。この母をイエスは、愛する弟子にお託しになり、「見なさい。あなたの母です」と言われました。この光景をあなたはどのようにご覧になりますか。

イエスの十字架の出来事は、様々な私たちの人生の方向を導いてきたことに、私たちは気づかさせられるのです。愛弟子はイエスの言葉を聞くと、イエスの心中を察し、その信任に応えて、それ以上十字架の下にとどまらず、直ちにマリヤを自分の家に引き取ったと思われます。十字架の下で、血縁関係や同情心に基づく単なる人間的な交わりとは根本的に異なる、キリスト者の交わりがそこに生まれました。

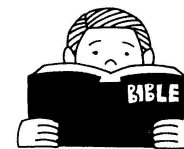
この新しい交わりの特徴は、この交わりにあずかる者はみな自分のためにキリストが十字架に死んで下さったことのゆえに私たちはみな、兄弟姉妹であるという意識で結びあわされているのです。このことは大変に重要なことです。家族の救いを祈る私たちにとって、私たちはさらなる祈りを求められると言うことです。イエスの十字架はすべてを変えます。私たちのすべての罪が贖われるときに、救われた私たちの新しい歩みが始まります。それだけではありません。その家族の絆はさらなる強さを増します。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

詩篇 22 失望の中で

よく覚えておいででしょう。イエスが十字架の上で叫ばれた「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになるのですか」との叫びは、この詩篇の言葉であろうとされています。イエスはあたかもこの詩篇が、これから成就しようとしているんだと言わんばかりに、この冒頭の言葉を叫ばれたのであろうと理解させていただいているのです。

神が沈黙されたときの絶望と、彼自身の状態は、希望と交互に歌われています。この希望は、過去における神の取り扱いを思い出すとき、泉のようにわき上がってきます。最後の祈りは内的確信のうちに、公の讚美によって表現されました。深い標準において、もしこの詩篇の最初の部分が、キリストの苦難を語っているのであるとするなら、終わりの部分は、キリストが可能にした世界の救いについて語っていると言うことになるのでしょう。



Read God's Word.